

『わだち(轍)』とは車を通ったあとに残る両輪の跡。地域の皆さまと両輪となってこれからも確かな跡を残していきたい、との思いから名付けました。

題字 西垣真紀

わだち

〔理 念〕

「心ある医療」を実践し、地域の医療・福祉に貢献する。

〔基本方針〕

私たちは、地域医療機関との連携を密にし、地域住民の健康を守るべく努力します。

私たちは、医学の進歩を学び、自らの職業に誇りを持ち、常に医療の安全と質の向上をめざします。

私たちは、患者さんの立場と意見を尊重し、親切で思いやりのある医療をめざします。

私たちは、人としての倫理を自覚し、すぐれた医療人をめざします。



平成 20 年 10 月 18 日 (土) 市民公開講座 相談コーナー (県立図書情報館)

切らずに治す？

従来、消化器疾患に対する腹部手術は、大きく腹部を切開して行われてきました。しかし、1989年、フランスで、腹腔鏡の観察下に胆嚢を摘出する「腹腔鏡下胆嚢摘出術」が初めて報告されました。腹腔鏡下手術は、まず、全身麻酔下にお腹の中に炭酸ガス（もしくは空気）を入れて膨らませます。次に、臍下から腹腔鏡を挿入します。『腹腔』とは『おなか』のことを意味します。腹腔鏡の『鏡』とは『カメラ』のことです。すなわち、腹腔鏡と呼ばれる棒のようなカメラを『おなか』の中に挿入し、テレビモニターにおなかの中を映し出しながら手術を行う訳です。この際、手術操作に用いる器具を挿入するための5～10ミリの切開を左右2カ所に必要とするのが一般的です。この方法では小さい傷で手術が行えること、術後の疼痛が少なく回復が早いこと、が明らかとなり、世界的に急速に普及しました。

日本においても腹腔鏡下胆嚢摘出術が1990年に導入されて以降急速に普及し、現在では胆石症に対する標準術式として定着しております。当初、腹腔鏡下手術は胆石症に対して行われることがほとんどでしたが、そのメリットが認識されるに従い、次第にその対象臓器も広がってきました。現在では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、脾臓などに対しても、腹腔鏡下手術が行われるようになり、健康保険も適用されるようになりました。当科でも、胆嚢摘出術は勿論のこと、食道、胃、小腸、大腸などの良性疾患、さらには早期胃癌、大腸癌に対しても腹腔鏡下手術を行っており、年々症例数が増加しております。

写真は腹腔鏡下胃切除術を行った患者さんのお腹の傷です。5～10ミリの小切開5箇所と、最後に胃を取り出し、十二指腸と胃を吻合するために上腹部に約5cmの傷ができます。全く『切らずに』治る訳ではありませんが、従来の傷に比べて格段に小さいことがわかりいただけるのではないのでしょうか？



〈外科部長 久永倫聖〉



感染症の予防対策

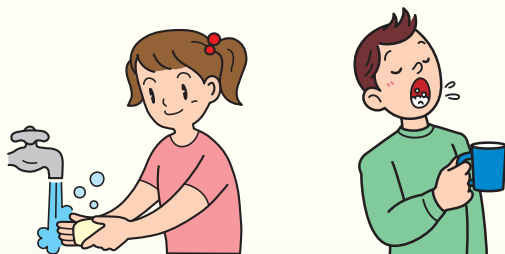
感染症とは、細菌やウイルスなどの病原体が体の中に入って、増え、せきや発熱、下痢などの症状がでることを言います。感染とは病原体が体の中に入ることを言いますが、その方法には大きく分けて次の3つがあります。①接触感染：手や物（ドアノブなど手で触るもの）によって運ばれる。②飛沫感染：咳やくしゃみによって飛ばされる。③空気感染：空気中に浮かんでいる病原体飛沫を吸い込む。問題となるのはその病原体がどの方法で体内に侵入するかです。それによって予防対策が決まります。

病院では院内感染予防対策として、すべての感染症に共通する標準予防策に加えて、それぞれの感染症に対して①接触感染予防策②飛沫感染予防策③空気感染予防策を講じて感染が広がらないようにしています。この時期には感染症の中でも、インフルエンザとノロウイルス感染症が多く発生しますが、家庭でも同様に考えればインフルエンザやノロウイルス感染症の予防ができます。

インフルエンザについては、②飛沫感染が主な感染経路です。インフルエンザにかかった人の咳（せき）、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきたら、人混みや繁華街への外出を控えましょう。外出時にはマスクを着用し、室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ちましょう。十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、常日ごろからバランスよく栄養をとることも大切です。帰宅時のうがい、手洗いも、一般的な感染症の予防として大切です。

ノロウイルス感染症は①接触感染が主な感染経路です。最も重要な予防方法は手洗いです。帰宅時、食事前には、家族の方々全員が流水・石けんによる手洗いを行うようにしてください。また消毒用のアルコールは、ノロウイルスには効きませんので注意してください。貝類の内臓を含んだ生食は時にノロウイルス感染の原因となりますので、高齢者や乳幼児は避ける方が無難です。おう吐物や下痢便には、ノロウイルスが大量に含まれています。そしてわずかな量のウイルスが体の中に入っただけで、容易に感染します。またおう吐物や下痢便などで汚れた衣類も大きな感染源です。処理方法等につきましては、当院に遠慮なくお尋ね下さい。

〈医療安全管理室長 松井孝安〉



市民公開講座 報告

平成20年10月18日(土)に県立図書情報館におきまして、当院と図書情報館共催の市民公開講座を開催いたしました。当日は2Fメインエントランスホールにて健康、栄養、薬の相談コーナーを設置いたしました。それぞれ看護師、栄養士、薬剤師が来訪者の質問に応じ、説明や指導を行いました。相談コーナーには、100人を超える方が来られました。

1F交流ホールでは、生活習慣と病気をテーマにした今井照彦副院長による講演会を行いました。多くのスライドを用い、成人病や生活習慣病、病気と生活習慣の関係といった、現代社会で問題となっている内容でした。約50の方が、熱心に耳を傾けておられました。質問される方もおられ、市民の皆様の健康に対する意識の高さをうかがい知ることができました。

なお、18日の市民公開講座に先立ち、15日(水)から2Fメインエントランスホールにて、各診療科による生活習慣病をコンセプトにしたポスター展を開催いたしました。44枚にわたるポスターに、訪れた方が足を止めて見入っておられました。

次回は、4月4日(土)当院大会議室におきまして、小児科に関する公開講座を行う予定です。詳細は後日、院内に掲示いたします。

〈市民公開講座実行委員会〉



相談コーナー



講演会



講演会での質疑応答



ポスター展

済生会奈良病院マラソンチーム「奈良爽走」

平成20年12月7日(日)に第28回奈良春日・大仏マラソン全国大会が、奈良公園春日野園地特設コースを発着点に、10キロ、5キロ、3キロジョギングの3種目が行われました。当院からは34名が出場し、全員が無事に完走を果たすことができました。

メタボ対策、体力づくり、病院の結束をテーマに同年5月から週1回の練習会をスタートさせました。チーム名は、奈良を爽やかに走りたいという意味を込めて「奈良爽走」と命名しました。職種も医師、看護師、技師、事務等と多岐にわたり、大会当日に事情で出場できなかった職員を含めると約40名の大所帯となりました。

メタボ対策として患者様の良きお手本となれるよう、メンバー一同はこれからも練習を継続していきます。次回ももちろん参加します。



集合写真



準備運動中

❁ 今月の投書から ❁

●ご意見

入浴時間の件ですが、手足が不自由でシャワーなど着替えも含めて20分間は、ちょっと厳しいです。(5階病棟)

●回答

入浴時間が短いとのこと指摘ですが、多くの患者様がお使いになられる場合には、時間が短くなってしまうことがあります。スタッフにお申しつけいただければ、臨機応変に対応させていただきます。



展示作品募集

当院では患者さまへの「癒し」をテーマに、院内の各場所に絵画や写真を展示させていただいております。もし、展示させていただける作品がございましたら、お電話やメールにて総務課までご一報ください。



皆さまのご意見をお聞かせ下さい

皆さまから済生会奈良病院に対するたくさんのお声をいただき、誌面に掲載していきたいと思っております。ご意見やご要望等がございましたら、下記まで宜しくお願い致します。また、表紙に掲載させていただく写真も募集致しております。添付ファイルにて下記のメールアドレスまでお送りください。



〒630-8145 奈良市八条4丁目643番地

社会福祉法人 恩賜財団 済生会奈良病院「わだち」係

e-mail : wadachi-nara@akishino.or.jp



社会福祉法人 恩賜財団 **済生会奈良病院**

〒630-8145 奈良市八条4丁目643番地

TEL 0742-36-1881

FAX 0742-36-1880

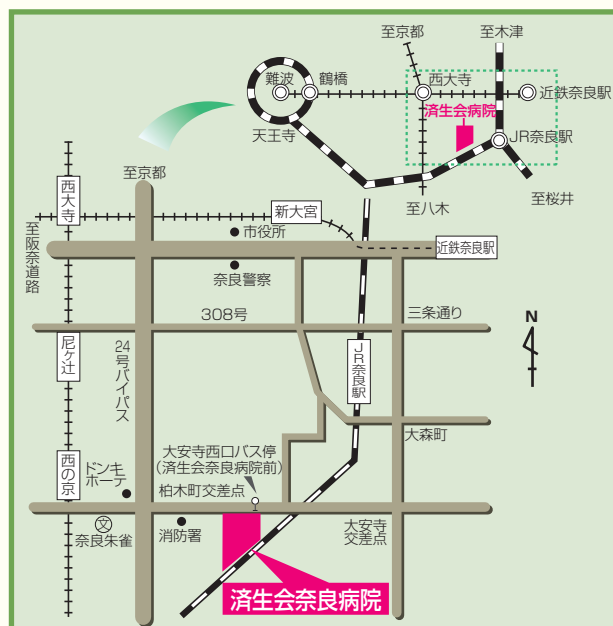
URL: <http://www.akishino.or.jp/>

e-mail: wadachi-nara@akishino.or.jp

■診療科目

内科・神経内科・外科・整形外科・
小児科・婦人科・泌尿器科・眼科・
耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科

編集・発行 医療情報公表委員会



①近鉄奈良駅前より恋の窪町行大安寺西口バス停下車すぐ

②県庁前発・近鉄奈良駅前よりJR奈良駅経由済生会奈良病院行
または県立図書館情報館行